

年より二九年なること推定せらるゝ也。此時のデ、ウイントがクツクのテーマスに於ける著述の仕事を爲しつゝありし時なりき。

ギルチン門葉中のジョン、ヴァーレーは學生に口癖に教へけるは、好含蓄ある色彩を淡薄に描けるものは、宛ら閑寂の趣あり。其故は各耳語するものも閑寂の中に明に閑取り得らるゝものなり。此の故に單純にして巧妙なる含蓄に於ける明晦の印象は直に見ることを得、又善惡をも知るべきなり。コツマンは此の眞理に多大の同情を有しき、この一様なる色彩に附きては日本畫の描法を追懷せらるゝなり。されど氏は日本畫を知り居たりしにはあらざりき。(今日迄の研究の範圍によれば)此の同じ眞理が常にデ、ウイントを指導しつゝありき。氏は自個の描法にてこれを行ふて、豊富なる榮えある色彩を施すなりけり。ジエームス、オーラツク氏曰く、デ、ウイントは『實に風景畫流中の大色彩家なり。蓋し何れの派中に於ても大風景色彩家なるなり』。人或はこれを信するものあらん、されど、色彩に附ての趣味は批評壇の論議に依りて證據立てらるべきものならず。其故は、二人が全じ色彩を全様に見たる例なきが爲なり。此事實は世人の好く認むる處にて、デ、ウイントに對する獨斷的の批評と許さゞれども、豊富なる色彩の充分なる調和ある仕組はあらゆる畫家及美術品評家の喜ぶ處なり。こは批評家の謹身すべき範圍を越えずしていふを得べき事也。これ等の繪畫は英國派の風景畫中の最健全なる活氣あるものなり。これ等はミューラー

コツクスの色彩及畫風のそれと異りて、人の模倣し得ざる比類なき實質あるなり。堪能の聞えあるサムエル、オースチンは師の跡を踏まざりしのみならず、氏の繪畫中の或物は、デ、ウイント自身の手になりし價値ありと思はるゝ程なり。もしこれを事實とすれば、かゝる特種の繪畫は皆埋没し了るにて、今日知られあるオースチンの水彩畫はデ、ウイントのものとして價あるもの一としてなきなり。そは色彩を異にし又實質に於ても調子に於ても異なるのみならず、その手法はオースチンがリヴァーブルに於いての畫風の明なる痕跡あるなり。確に地方的なる語調ありて、甚だ快活なれども、デ、ウイントの力ある本人自身の言語の如くにあらざるなり。されどももしデ、ウイントの色彩と、技術が如何なる熟練の技術家たりとも、模倣すること能はずとせば、畫解としての墨畫を用うることをも不可能とせざるべからざるに至るなり。實にかゝる畫解はよし善良にてもデ、ウイントの最良なる實質の傾向や力や譎姿の面影を僅に覗ふに足るのみなるなり。

\*

\*

\*

\*

\*

\*

\*

湖のへり家あれば焚く蚊遣かな

畔 川